

愛しのコレペティートル

- 2014.10.26 Sunday
- 18:59



「コレペティートル」って？ウキペディアからの引用によると・・・

歌劇場などでオペラ歌手やバレエダンサーに音楽稽古をつけるピアニストを言う。オペラにおいては、各配役に対して実際の公演の際のオーケストラが奏でる音をピアノで演奏し、個人練習の伴奏と助言をすることで、歌手の譜読みや暗譜、更に発音矯正の手助けをし、音楽への理解を深めさせる仕事である。

恥ずかしながらこの言葉を知ったのは、9月に千住明氏のオペラ万葉集の合唱に参加したのがきっかけ。ピアニストの先生のアドバイスが的を得ているというか、え？？声楽もされるんですか？というくらい専門的であり、わかりやすいご指導。担当名がコレペティートルとなっていた。今までいろんな合唱に参加してきたけれど、ピアニスト先生がご指導してくださるのは初めてだったので正直びっくりの合唱練習でした。

しかし・・・よく考えてみたら我が団のピアニストひとみ先生がまさに**コレペティートル**。神谷先生のお休みの定例はほとんどひとみ先生のご指導で、昨日なんかは笑ったり冷や汗流したり。



チルコットの砂山、故郷、村祭りの暗譜練習だったけれど、「はい、ドンヒャララ1回目～、次2回目～ 次3回目～」の先生の合図に汗だくの団員。一同、もう脳ミソがどんひゃらら。。。でしたわああ。私なんぞは帰宅してからもお風呂に入ってもどんひゃらら、寝ても笛、太鼓が鳴り響き、なかなか寝付けず(笑)

こんな感じでそれぞれのご指導の先生方の個性がほとばしる豊かな練習で盛り上がる土曜の夜です。

基本に戻ろう

- 2014.10.17 Friday
- 11:37



カメラ小僧の習い事経歴は幼稚園にさかのぼる。通っていた幼稚園の放課後に開かれていたY社の今でいうリトミック幼児クラス、幼稚園の近くのお寺の片隅の教室での硬筆・毛筆の書道教室。

ピアノは小学校5年の時にソフトボール部に夢中になり、1年間休んだことを除いて今も継続中というか、仕事になっているわけで。

書道はピアノと部活が忙しくなり小6でやめ、25の時に再開し、国家資格取得クラスに3年通う。

2級までは取得したものの、やはり練習時間が無くなり1級取得ならず(T_T)中断。

時はウントコサ〜と流れ、技術はすっかり衰え忘れちゃった筆の感覚。

やっぱりボロボロだ、悲しいほど基本を忘れてる。

人生半世紀を過ぎ、今後を5年ごとのスパンで考えることにし、その中でやはり書道は音楽に並ぶ人生の友、いうことで6月から再開し、ぼちぼち書いている。いくら習っていた年月が長くとも、持っている級が高くとも、自己流になってしまっていることは否めないから原点に戻って中国古典を臨書することで基礎力をつけている段階。

合唱もそうかも。

歌っている年月が長いことに満足してしまって自分の歌い方を見直すことを忘れていないか？

周りの音を聴くことを忘れてしまっていないか？

半年ほど前から原点に戻ろう〜という合唱経験の長い団の先輩方が

ボイトレ毛利先生の個人レッスンを受け始めている。

たまにそばで聴いているとウンウン、効果出てますぞ〜と感じる。

若いころに比べれば(失礼！)確かに歩みはゆっくりだけど、足元を見直そう！という気持ちを見習いたい。

我が団もこの2か月で仲間が8名ほど増え、総勢50名ほどになった。

2016年の30周年記念演奏会に向けて、そう自問自答しながら

新しい仲間と共に原点に戻ろうと思っている。

蛇足♪

書いていると書道と歌って共通しているな・・・とつくづく思う。

一旦墨をつけたら一気に流れるように書いていく。息の流れと同じ。

躊躇しようものなら線が震える＝ビブラート。

行書なんかはリズムが左右する。

吸って、吐いて、書いて・・・まったく違う領域のコラボを楽しむこの秋です。